

⑩ 末梢神経障害

末梢神経が障害を受けることにより、手足のしびれや動かしづらさ、痛みなどが生じる状態をいいます。これにより、日常生活に支障をきたすことがあります。



原因

抗がん薬には神経細胞に作用し、副作用としてしびれなどの症状が現れることがあります。特にオキサリプラチンは、冷たいものに触れるとしびれを感じやすくなる特徴があります。

抗がん薬	パクリタキセル、パクリタキセルアルブミン懸濁型(アブラキサン®)、 オキサリプラチン、ビンクリスチン(オンコビン®) など		
出現する症状	【手や足】	・ピリピリとしたしびれ ・感覚が鈍い	・冷たい感じ ・力が入りにくい
	【その他】	・服のボタンが掛けづらい ・お箸がもちにくい	・ジンジンして痛い ・物がつかみづらい ・文字を上手に書きにくい ・つまづきやすい

出現の目安

抗がん薬の影響により、治療を重ねるほど末梢神経障害のしびれが強まり、範囲が広がることがあります。

しびれの症状は治療後に徐々に改善しますが、重症の場合は長期的または改善が乏しいこともあります。

確立した治療法がないため、対策と早期発見が重要です。

※ パクリタキセル、アブラキサン®、ドセタキセルを投与される方は手袋を用いた予防法がありますので治療時にご説明します。

オキサリプラチン	急性の症状	投与後4～5日間は寒冷刺激により症状が現れ、回復します。 寒冷刺激で口唇周囲の知覚異常や喉の締め付け感が生じることもあります。
	慢性の症状	投与回数が増えると、手足のしびれや動かしにくさが持続することがあります。

対応の工夫

- ・ 締めつける靴や高いかかとの靴は避けましょう
 - ・ 手足の血行を良くするため、入浴や適度なマッサージをしましょう
 - ・ しびれが強く感じる場合は、お湯の温度を調整しましょう
 - ・ 手足の運動を行い、末梢循環を改善しましょう
- 「手のしびれの工夫」「足のしびれの工夫」を参考にしてください。



日常生活の注意点

しびれや感覚鈍化により、ケガややけどのリスクが高まります。爪切りの際の深爪にも気をつけましょう。



オキサリプラチンの対策

手袋や靴下で保温し、温水を使い、冷たいものの接触や飲食を避けましょう。



早めにご相談を！

しびれが日常生活に影響を及ぼす前に主治医に相談しましょう。
薬の投与量の調整や休薬により症状が軽減することがあります。



ご連絡
いただきたい
状況

手足の動かしづらさやしびれ、痛みにより日常生活を送ることがつらくなっている時 など

TEL. 078-261-6711

平日 (8:30～17:00) ⇒ 各診療科が対応

時間外 (17:00～翌8:30) 及び土・日・祝日 ⇒ 救急外来が対応

社会医療法人神鋼記念会
神鋼記念病院